

ぐりふぁん letter



Vol.
41
2021.2

INDEX

- ◆ 聖光幼稚園におひさま発電所が出来ました！
「おひさま発電所」開設にあたって
「せいこうようちえんおひさまプロジェクト」収支報告 ……2
- ◆ 2050年カーボンニュートラル実現に向けて ……3
- ◆ きょうとグリーンファンドの20年とこれから ……4
- ◆ 太陽光発電パネルのリサイクル施設を見学しました
TOPIX ……5
- ◆ 森と太陽に感謝☆豊かな環境学習と子どもの育ち
聖光幼稚園環境学習～はじめての自然観察会 ……6
- ◆ 会員さん こんにちは！
事務局から
編集後記 ……7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

聖光幼稚園に **おひさま発電所**ができました!

「おひさま発電所」開設にあたって

学校法人聖光学園 聖光幼稚園 理事長 宮本 紘明

「おひさま発電所」開設にあたって一方ならぬお世話を頂戴し深く感謝申し上げます。

さて、聖光幼稚園は今年9月に創立90周年を迎えようとしております。創立者はアメリカ人宣教師ミス・ヘレン・スカイルス先生と申します。こどもを愛してやまない方で、その一方で厳しさも併せもつ人間味豊かな先生でありました。先生の保育方針は、こどもたちの個性を大事にし、人を愛し、のびのび豊かな人に育てることでした。



創立当時の写真を見ても、幼稚園以外の建物は一つもなく、幼稚園の周辺にはカエルやドジョウが泳ぎ回り、トンボが飛び交いこどもたちにとって、天国のような自然環境が広がっていました。しかし都市化が進むにつれ、住宅が立ち並びマンションが林立する現在の姿に変貌してしまいました。真正面に見えた比叡山は、どこに行ったのでしょうか。当時の姿を留めているのは、園庭に降り注ぐ太陽と裏に控える「松ヶ崎法の山」だけになってしまいました。

近年幼稚園や自宅に頻繁に売り込み電話が掛かってまいります。その中でとりわけ目立つのが太陽光発電に関するものです。曰く「お近くに参りましたので挨拶をさせてほしい」、曰く「今の電気料金に比べこんなに有利です、いま導入するとこんなサービスが受けられます」等々手を変え品を変え迫ってまいります。3年前最初のゲートを潜り抜けた業者と面談する羽目となりました。黒と紺のスーツにぴっちり身を固めた4人の営業マンと対峙し、立派なカタログ資料を呈示しつつ実に見事なセールストークを展開されます。立て板に水のトークは、こちらに考える余裕を与えてくれません。決して嘘偽りを述べているわけではなく、騙したり脅したりするわけではありません。確かに間違いなく有利で良いお話なのです。いつのまにか契約書にサインする寸前に至りましたが、営業マンの方に全幅の信頼がどうしても湧いてきません。あまりにも完全だったからです。どうにか今一度検証したいので、一日だけ時間を下さいと切り替えし、結局お断りいたしました。

そんな折、園長先生からちょっとお話があるんですが、と声をかけられました。聞いてみると「NPO法人きょうとグリーンファンド」さんによる太陽光再生可能エネルギーのお話でした。



最初は前回のこともあり、あまり興味を示さなかったのですが、渡されたパンフレットに廃棄されたパネルのことが記されていました。自分に都合の良いことばかり述べるトークが多い中、マイナス情報に触れる姿勢に共感を覚えた次第です。また補助金制度、省エネ、節電など過不足のない説明を受け、導入するならこしかならないの思いに至りました。

導入後の点灯式、太陽光パネル裏に描かれた絵、発電所看板、エコ宣言などなどこどもたちが主役であると強く印象付けました。園庭の真ん中に設置された三角屋根に登り太陽光パネルの枚数を数える子、廊下に設置されたモニターで発電量を確認するこどもなど様々です。そして永年降り注いでくれた太陽の光に新たな活躍の場が与えられ、とても嬉しく思います。

プロジェクトを始める時、いただいたのが「日本聖公会『原発のない世界を求める国際協議会』声明」と聖公会の関係団体の一覧でした。プロジェクトへの参加呼びかけを700件近くの団体にお送りしましたが、何より園長先生はじめ幼稚園のみなさまの確固としたお気持ちが伝わってきて、事務局一同気持ちを新たにいたしました。おかげさまで、きょうとグリーンファンド20周年記念事業にふさわしいプロジェクトとなったのではないかと思います。

(きょうとグリーンファンド事務局)

せいこうようちえんおひさまプロジェクト収支報告 (11.1kW) 2021年2月

収入の部		支出の部	
プロジェクト寄付金(104件)	837,000	設備設置費 太陽光発電(11.1kW) 蓄電システム(6.5kWh)	4,084,000
設置協力金(5件)	450,000	印刷製本費	204,000
おひさま基金助成金	706,000	諸謝金	110,000
設置施設資金 聖光幼稚園資金 1,490,000円 京都府自立型再生可能エネルギー 導入補助金 1,237,000円	2,727,000	記録費	154,000
		通信運搬費	161,000
		旅費交通費	16,000
民間助成金 公益財団法人パブリックリソース財団 公益財団法人SOMPO環境財団	464,000	事務局経費	450,000
		雑費	5,000
合計	5,184,000	合計	5,184,000

(単位:円、千円以下原則四捨五入)

2050年カーボンニュートラル実現に向けて

認定NPO法人気候ネットワーク 上席研究員 豊田 陽介

菅首相は、2020年10月26日に開かれた第203回臨時国会の所信表明演説において、「2050年に温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」「すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言した。これまでの日本政府の目標は2030年24%削減であり、2050年80%削減であったものをひきあげたことになり、今回の発表は改めて温室効果ガスの排出ゼロを目指すという政府としての意思を国内外に示したことになる。

◆脱炭素社会の実現と第6次エネルギー基本計画

これまで日本における温室効果ガスの削減目標は、エネルギー基本計画のもと示されたエネルギーミックスに基づいて設定されてきた。エネルギー政策でエネルギー構成を決めることで電力使用に伴う原単位（CO2排出量）が決まり、それをもとに対策を積み上げて温室効果ガスの削減目標を決めるという流れであった。つまり、エネルギー政策が温暖化対策よりも上位にあったということだ。それに対して、今回は首相によって温室効果ガスの実質ゼロが宣言されたことで、10月上旬に議論が始まっていた「第6次エネルギー基本計画」においても、脱炭素社会を如何にして実現するのか、そのためのエネルギー政策の検討が行われるようになった。

先立って経済産業省が発表した「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」は、カーボンニュートラル宣言を受けて、これを成長の機会として捉え、新たなビジネスモデル、イノベーションを起こすことを目指す内容であった。産業界のビジネスモデルや戦略を根本的に変えていく必要があることなどを認識し、2050年実質ゼロの目標を定めている事は評価できるものの、2030年の目標値を定めていないことや、過度なイノベーションに期待し、かつ2050年時点での再エネ100%達成を諦め、原発や石炭を容認するなど（再エネ50-60%、水素・アンモニア発電10%程度、原子力・CO2回収前提の火力発電30~40%程度で検討）1.5度目標を目指すためには全く不十分な内容にとどまっている。

◆コロナ禍でも止まらぬ脱炭素化の潮流

一方で国際情勢を見れば、米国のバイデン新大統領はパリ協定への復活を宣言し、再び石炭等の規制を行うことを打ち出し、これまでEUを中心に進められてきた再エネ推進、脱石炭の流れを更に加速させようとしている。EUではコロナ禍の経済復興の機会を持続可能性向上に向けた投資に充てる「グリーンリカバリー」が主流になるなど、コロナ禍でも脱炭素化の流れは止まらない。

企業にとっても拡大するESG投資が象徴するように、ビジネスの脱炭素化は企業経営に大きな影響を及ぼすまでになっている。2050年までに企業経営を100%再エネ電力に転換することを宣言するイニシアティブ「RE100」への加盟企業数は280社以上にのぼり、日本企業も50社以上に拡大している。RE100企業によるサプライチェーンに対する要望も始まっており、アップルの取引先の中小企業は再エネ100%での部品製造を始めている。こうした流れは今後更に広がっていくことが予測されており、日本企業にとってもRE100への対応は国際的なビジネスを展開していく上での必須事項となる。例えばRE100に加盟するソニーは、2040年までに再エネ100%達成を目指している。国内外で多くの工場を操業しているが、日本国内での電力使用量の割合が86%を占めている。それに対して再エネ調達コストが最も高いのも日本国内となっており、今後、ソニーがRE100達成を目指す上で国内での再エネ電力の調達が必要な課題となる。ソニーだけでなく多くの企業が再エネを求めている現在、日本での再エネ供給量は圧倒的に不足しており、日本の産業の発展を妨げるボトルネックとなりかねない。脱炭素化を目指す中で再エネ100%を目指すことは、日本の産業の発展のためにも欠かせない。

こうした現状と展望を見据えて、改めて第6次エネルギー基本計画では再エネ100%目標の達成を前倒しで進めていくことが求められるだろう。例えば2030年には50%以上、2040年ごろには100%を達成していく必要があると考える。日本における2050年実質ゼロをどのように達成するのか、2030年目標の設定とともにエネルギー構成をどうするのか、その点がまさに今問われている。

BBCによれば国民の3.5%以上が参加する非暴力の抗議運動が起きれば、必ず変化がもたらされてきたそうだ（BBC, 2019）。私たち市民も真の脱炭素社会の実現に向けて、本質的な転換を求める声を上げていく必要がある。まずは第6次エネルギー基本計画の改訂に向けて、ぜひとも2030年の50%以上の削減目標の設定と、再エネ100%の早期達成についての意見を出してほしい。

◆政府のエネルギー政策に関する「意見箱」はこちら

https://www.enecho.meti.go.jp/committee/council/basic_policy_subcommittee/opinion/index.html

きょうとグリーンファンドの20年とこれから

きょうとグリーンファンド 副理事長（認定NPO法人気候ネットワーク事務局長） 田浦 健朗

◆市民の力で自然エネルギーの普及を

京都議定書が採択された後、地球温暖化問題への認識が広まると同時に自然エネルギーに関する関心が高まっていました。私たちは、自然エネルギーは「市民所有」と「地域分散」が特色であることを学び、市民による自然エネルギーを増やしたいと考えていました。北海道で市民風車を建設することに取り組んでいる「北海道グリーンファンド」の話をきっかけに、京都で太陽光の市民共同発電をつくりたいということになりました。

学習や会議を重ねる中で、「自然エネルギーに関心があっても寄付をする人はいるのか。どのような方法で寄付を集めればいいのか。何年で元がとれるのか」など検討することは山積みでした。そのような検討を重ねて、2001年3月に法然院・森のセンターで「おひさま発電所」1号機が完成し、大変元気づけられました。

その後、保育園・幼稚園に続けて設置することができました。設置することが決まって寄付の募集期間や設置後にも温暖化問題、省エネ、自然エネルギーなどについての学習会を行い、設置場所の関係者や支援者なども参加する環境学習や環境活動の拠点となってきました。その後も毎年のように設置することができ、福祉施設や宿泊施設、民間企業などへの設置も含めて24機のおひさま発電所が設置されています。

◆おひさま発電所の特色と成果

まだ、市民共同発電所の事例が少ない時期に設置することができたことで、一つのモデルになりました。各地できょうとグリーンファンドの事例を参照して、さらに地域独自の工夫を加えて設置していくことで市民共同発電所の普及につながってきています。

寄付型で設置を続けることは簡単ではなく、継続して設置することができたのも成果の一つと言えるでしょう。助成金や寄付金を活用しながら、次の設置につなげていくことができたのが要因と言えます。単に寄付を集めて設置をするだけでなく、継続的な情報発信や学びの機会をつくり、そのためのパンフレットやツールづくりにも取り組んできたことも特色です。自然観察会や腹話術による環境学習なども、環境問題への意識の向上や環境活動の活性化につながったと思います。

この間、自然エネルギーに関する状況は大きく変わってきました。太陽光発電の設置価格が低下するとともに設置助成金は減少し無くなっていました。東京電力福島第一原子力発電所の事故により自然エネルギーや市民共同発電所への関心が高まりました。2012年には再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）がスタートし、市民共同発電所の形態や規模が大きく転換しました。きょうとグリーンファンドは、このような変化にも対応すると同時に元々の理念や趣旨は変えないで、活動を継続してきました。

◆多様な人や団体との連携・協力

きょうとグリーンファンドには多くの人や団体が関わり連携してきていることも特色の一つだと言えます。太陽光発電設備の設置も点灯式を含めての完成までにはきょうとグリーンファンドの趣旨を理解している事業者が必要です。チラシ作成のためのデザイナー、環境学習の担い手、寄付集めの情報発信や依頼の担当者など多様な人々や団体が関わることによって、おひさま発電所の設置が一層意味あるものとなっていると思います。寄付集めや設置施設の責任者との契約など、経理や法律に詳しい人の協力は欠かせない条件です。NPOや寄付の制度に詳しい人の協力もあり、認定NPO法人を継続しています。

きょうとグリーンファンドに関心を持っていただいた人や団体ともつながり、アドバイスや支援もしてきて、他地域への貢献もしてきています。

◆今後に向けて

私は、きょうとグリーンファンドに、発足当時から関わり、現在も理事を務めさせていただいています。ただ、実際の活動への貢献はできていなくて、当事者でありながらも、外部からの視点での振り返りとして記述しました。その上で今後に向けての考えもお伝えできればと思います。社会はようやく脱炭素に向けて進み始めたところです。これまでの成果を踏まえて今後どのような方向に向かっていくべきでしょうか。自然エネルギーが望ましい形で普及していくためには、きょうとグリーンファンドの役割は大きく、継続が求められていることは間違いありません。同時に社会の変化に合わせた転換も必要かもしれません。将来の世代に原発も温暖化もない社会を手渡すことができるよう、引き続きご支援くださるよう、よろしく願います。

太陽光発電パネルのリサイクル施設を見学しました

一般社団法人市民エネルギー京都 伊東 真吾

去る2020年10月27日に、きょうとグリーンファンドのみなさんと、京都府八幡市にある近畿電電輸送㈱の使用済み太陽光発電パネルのリサイクル工場を見学しました。

環境問題への関心の高い方の中には、「太陽光発電が作り出す電気は良いが、電気を作り出すパネルは使い終わったら処理に困るごみになるのではないかと」との疑問がしばしばあり、導入時に悩まれる方もおられると思います。また、わたしの所属する団体で保有する太陽光発電でも、設置後に異物があたるなどしてこれまでに廃棄(埋立処分)せざるを得なかったパネルもあります。

今回訪問した八幡市の工場は、NTTの電話線の工事等に伴う物流や廃棄物処理を長年事業とされている企業が、2020年に新たに始められた事業で、工場のラインを大きく分けると、

1. パネルを分解して表面のガラスと金属枠、プラスチック等に分解する工程
 2. 表面ガラス(発がん性物質のアンチモンが多く含まれている)を無害化し発泡ガラスとして再利用可能にする精製工程
 3. まだ使用可能な太陽光パネルを点検チェックしてリユースに回す工程
- に分かれています。特に2について、鳥取の企業が有する特許に基づき、発泡ガラス(写真)として道路の舗装材等に活用可能な資材に再生することができるのがこの工場の売りだとのことでした。

セル自体は現状ではまとめて熔融スラグ化(土木資材等に再利用)されているとのことですが、将来的には(ロットが増えてくれば)半導体等に含まれている微量金属の抽出も考えられるとのことでした。

使用済みパネルは1枚からでも受け入れ可能(基本的には単結晶・多結晶。CISについては要相談)とのことですので、今後活用させてもらおう機会もありそうです。

太陽光パネルリサイクル設備「ReSola(リソラ)」(処理工程)

廃太陽光パネル



<ReSola(リソラ)> 太陽光パネルリサイクル設備

- ・端子BOX取外し ケレン棒等を使用し、手作業で端子BOXを外します。
- ・アルミ枠外機 アルミ枠の位置をセンサーで感知し、自動でアルミ枠の取り外しを行います。
- ・ガラス剥離機 自動的に6回、ロール状の刃物で粉砕され、約85%以上のガラス剥離が可能です。
処理能力 約4.8t/日、0.6t/hr
処理量 120秒/枚、30枚/hr



アルミ枠
アルミフレームは有価物として再利用する。



ガラスくず
太陽光パネルの約6割を占めるガラスくずは、含有するアンチモン(発癌性物質、通常のガラスビンの数百倍含まれている)などの、有害物質や、不純物混入などで製品化が難しい為、ガラスを「発泡ガラス」にリサイクルする技術を導入し、有害物質の無害化と二次製品化を図ります。



バックシート
バックシートは製錬所にて溶解して銀を抽出、または熔融スラグ等製造する。

Topix

YouTube きょうとグリーンファンド・ぐりふあんチャンネルを開設しました!

きょうとグリーンファンドの紹介、聖光幼稚園の点灯式の動画をアップしました。

<https://www.youtube.com/channel/UCN7FwdV-e7UAlyxTqCeFI3A>

点灯式の可愛い子どもたちの歌声やミニ講座なども、ご覧いただけます。
ぜひ、ご覧いただいて「いいね!」をお願いします。





森と太陽に感謝☆豊かな環境学習と子どもの育ち

森のようちえんどろんこ園 代表 石川 麻衣子

毎日森で駆け回る『森のようちえんどろんこ園』の子どもたち。四季折々の自然の恵みに笑顔が溢れる日々ですが、楽しい事ばかりではありません。

寒い冬には『おひさま』の光が何よりのプレゼント。そんな子どもたちにとって、身近でだいすきな『おひさま』が電気を作るんだって！『おひさま』ってスゴイね～。

そして暑い夏には大好きな水遊び!! だろんこ園の子どもたちは、川遊びで水と親しみますが、あんまり暑いと公園の水道でつつい始まる水遊び……。猛暑でいっぱい汗をかいたあとの水の気持ち良さ、楽しさは格別です。

「気持ちはよくわかるけど、お水もったいないな～」「プールはいいけど、水道の水で遊んでほしくない」そんな大人の言葉に「なんで?」と素直な疑問を投げかけられます。こんなとき、大切なことは伝えたいけど、どこから話せば伝わる? 口うるさく言うのもやだな～……。

そんなことを考えていた時に出会った『きょうとグリーンファンド』の環境学習。面白い腹話術を楽しみながら環境について学べるなんて



本当に嬉しい出会いでした。貸していただいた『環境すごろく』で遊んだり、腹話術を楽しんだりしたことが、子どもたちの心と身体に染み込んだ『森のようちえん』の日々での感覚に繋がっていったら本当に素敵だなと思います。

今後たくさんの子どもたちに素敵な腹話術や、すごろく遊び、おひさま発電もどんどん広がっていったらいいなと思います。
ありがとうございました!



「森のようちえん」は1950年代にデンマークの一人のお母さんが自分の子どもとおとなりの子どもを、森の中で保育をしたのが始まりといわれています。園舎の有無、運営方法、活動の頻度などは様々で、幼児の野外活動を総称して「森のようちえん」といわれています。

「森のようちえんどろんこ園」は、自然豊かな京都里山の地（宝ヶ池公園）で、野外活動をベースとした、少人数・縦割り保育の「森のようちえん」です。（HPより）森のようちえんの皆さんとは、助成金の説明会で一緒にしたのが始まり。この度の「腹話術」「環境すごろく」提供となりました。（きょうとグリーンファンド事務局）

聖光幼稚園環境学習～はじめての自然観察会

聖光幼稚園 年長そら組担任 岩本 唯



宝ヶ池は子どもたちにも馴染みのある場所で、そこまでの道のりはよく知った場所です。しかし今回改めて、小さな自然のひとつひとつに目を向けてみることでたくさんの発見がありました。

鹿などの動物が降りてくる獣道があったり、木の実を食べた後があったり、蜘蛛の巣ひとつをとっても、糸にかかった虫が体液だけ吸われて体が残っている様子を見ることができたり、普段は見過ごしてしまっていることに目を向けられる良いきっかけになりました。

川にはたくさんの鳥がいて、カワセミが魚を取る様子や、鶺鴒が羽を乾かす様子なども観察でき、身近にこんなに素晴らしい自然があることに感動しました。

子どもたちはお家に帰ってからたくさんお話ししたようで、保護者の方からは「普段幼稚園の様子をぜんぜん喋ってくれない子なのに、この日は一晩中話し続け、気になったことを図鑑やネットで一緒に調べ、土日には散歩をしながら板倉先生に教わったことを目を輝かせながら話してくれました!」と嬉しいお話をいただきました。ぜひ今後ともご指導いただき、四季折々の自然に触れていきたいです。



聖光幼稚園は、2020年11月25日におひさま発電所となりました。そして、2021年1月21日には、自然観察会に早速トライ。講師の板倉先生も、わが庭のようなフィールドでの子どもたちとの観察会を楽しんでおられたようです。（きょうとグリーンファンド事務局）

22年間太陽光発電と暮らして

・・・ 荒野 一夫 さん

京都市で50年暮らしましたが家が購入できず、比良山麓に終の棲家を得ました。当時、私の生まれ故郷の石川県珠洲市で原発計画が進行していましたので、原発への思いから太陽光発電を設置しようと思い立ちました。設置して常に節電を心掛ける暮らしになりました。山間に所在するのと北陸の気候に近いので、京都市内に比べると2割程発電効率が落ちるようです。

3.2kWを設置し費用は350万円、助成金が115万円、耐用年数20年として100万円程の持ち出しかな?とっていたのですが、FITと22年経った今も発電を続けていますので、持ち出しはかなり少なくなったのでは?とえます。それ以上に電気を自給する暮らしは心地のいいものです。ちなみに私は電気以外に、水を100%(井戸水)、冬の暖房用燃料を90%(薪ストーブ)、ビールを99%(自ビール)、味噌を100%自給しています。野菜の自給も目指しましたが、鹿と猿の食害で挫折しました。

私の暮らす地域にも、農地を潰したり山林の木々を伐採してのメガソーラーが幾つもあって景観を壊して、心寒い思いでいます。

きょうとグリーンファンドの活動は、幼稚園や保育所の園児や先生・地域の人々への環境教育にとどまらない内容を持っていると思えます。

生活の場ではないメガソーラーは金儲けの手段ですが、幼稚園や一般家庭などの生活の場での太陽光発電所は節電所でもあると思っています。

私の尊敬する中村哲先生は、「100の診療所より、1本の用水路を!」を唱えて何本もの用水路を開削されました。私は「1つのメガソーラーより、万の生活の場での太陽光発電を!」を呼びかけたいと思います。

きょうとグリーンファンドが生活の場を中心に活動を続けていかれることを願っています。

20周年おめでとうございます。

・・・ 中 孝征 さん

お店の情報コーナーにプロジェクトの呼びかけを置いて協力を呼びかけてきた「おひさま発電所」も、もう24号機まで設置されたんですね。

喫茶店をしていると週に何本かは電気の契約を切り替えませんかという勧誘の電話がかかってくる。「いまお使いの電気料金が安くなります」というお誘いです。安いのは魅力的ではありますが、なんとも切ない破滅的な勧誘でもあります。

気候危機とは裏腹のような勧誘という現実にしんどいものを感じますが、愚直に地球温暖化をなんとかブレーキをかけ防ぎ、原発のエネルギーに頼らず自然エネルギーを増やしていくためのその24機の「おひさま発電所」に関わり触れて経験した人たちが未来を変えていく力になると思えます。

小さな協力ですがこれからもしていきます。

事務局から

きょうとグリーンファンド設立前から、ずっとお世話になっている印刷屋さんが糺書房さんです。今年度のプロジェクトでもお世話になりましたが、思わずウルッときたメールを頂戴しました。

糺書房さんからのメール

さっそく、ご用命いただき、有難うございます。いつもグリーンパワーをご活用いただき、有難うございます。

きょうとグリーンファンド様の自然エネルギー普及へのご尽力は、私どもの小さなともしびに比べれば、希望の光です!感染症のコロナではなく、太陽のコロナのパワーだから!

来年も、よろしく願い申し上げます。有難うございました!

編集後記

・コロナ騒動、早くも1年以上経ちました。元の生活に戻りたい気持ちもありますが、以前のように日本中、世界中がわさわさと動き回る時代が間違っていたような気がする昨今です。(K.M)

・世界中コロナ禍に見舞われて、それどころじゃない。けれど気候変動は確実に気候危機、世界共通の課題となりました。これにワクチンはない、ですよね。(K.O)

・今年度の環境学習は、コロナの影響で、中止になったところもありますが、継続して実施することが出来ました。子どもたちに会うと元気をもらえます。(Y.F)

・コロナ禍になって1年が過ぎて疲れが溜まって来ました。飲み会や雑談、音楽鑑賞や美術鑑賞など無駄に見えることが、とても大切なことを実感しています。(T.Y)

・10年経っても余震?2月13日夜、東北地方に震度6強の地震が、15日は和歌山では震度4の地震が発生しました。改めて、枕元の手回しのラジオ付きライトと非常持ち出しのリュックを確認。水等の非常の備蓄を見直しました。

・ローリングストックしてゆきます。(Y.M)

・年末から年始にかけてJEPX(卸電気取引所)の市場価格が異常に高騰した。天然ガスの在庫不足という噂だったが真相は違うらしい。電源の偏りにあるようだ。(T.H)

・なるべく牛肉を食べるのを減らそう...2050カーボン0実現にむけ、ささやかながら我が家でできること。(S.K)・・・ 7

《 ぐりふあん日誌 》

(2020)

- | | | | |
|---------|--|--------|--|
| 7/20 | せいこうようちえんおひさまプロジェクト外寄付募集開始
(~12/15) | 11/18 | 自然環境学校検討会議出席 |
| 8/1 | 自然環境学校・京都2020第3回 | 11/9 | 環境腹話術/みょうりんえん |
| 8/19~22 | おひさまプロジェクト外太陽光発電設備設置工事
/聖光幼稚園 | 11/19 | KGPN幹事会出席 |
| 8/26 | 環境腹話術/おおやけこども園 | 11/20 | 阪急・阪神HDゆめ・まちSTUDY第1回オンライン参加 |
| 9/1 | KGPN幹事会出席 | 11/25 | おひさまプロジェクト点灯式/聖光幼稚園 |
| 9/12 | 自然環境学校・京都2020第4回 | 12/4 | 内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォーム入会 |
| 9/24 | おひさまプロジェクト外太陽光発電設備職員対象説明会
/聖光幼稚園 | 12/6 | 2020市縁堂参加 |
| 9/26 | 自然環境学校・京都2020第5回 | 12/8 | 上鳥羽北部いきせエコ活動打合せ |
| 9/30 | 環境腹話術/聖光幼稚園 | 12/9 | 下京いきせ取材 |
| 10/2 | 社会福祉法人博愛会小林さん来室 | 12/11 | FMうじ取材 |
| 10/6 | 上鳥羽北部いきせエコ活動打合せ | 12/17 | KGPN幹事会出席 |
| 10/7 | 自然観察会(おおやけこども園)/京都御苑 | 12/23 | 公益財団法人SOMPO環境財団助成決定 |
| 10/12 | 環境腹話術/大宮保育園 | 《2021》 | |
| 10/20 | 環境腹話術/陵ヶ岡こども園 | 1/21 | 自然観察会(聖光幼稚園)/宝ヶ池
環境腹話術/森のようちえんどろんこ園 |
| 10/20 | 京都府地球温暖化防止活動推進センター調整会議出席 | 1/26 | 自然環境学校検討会議出席 |
| 10/24 | エコ体験イベント参加/上鳥羽北部いきせ | 2/3 | 第132回理事会 |
| 10/27 | 自然観察会(大宮保育園)/京都府立植物園 | 2/9 | せいこうようちえんおひさまプロジェクト打合せ |
| 10/29 | 有限会社ライアンス現地調査・ヒアリング
JCNEベーシックガバナンスチェックの評価を受ける | 2/16 | 京都府地球温暖化防止活動推進センター調整会議出席 |
| | | 2/17 | 自然環境学校検討会議出席 |
| | | 2/18 | KGPN取材 |

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によって
ささえられています。

おひさま基金へのご寄付はゆうちょ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
加入者名:きょうとグリーンファンド

★2020年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数

正会員 37 賛助会員 23

法人会員 5 2021/2現在

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; <http://www.kyoto-gf.org> (火~金 13:00~16:00)

